



陰部ケアについて考える！

今回は、日常的に行われている陰部ケアを感染対策の視点を含めて、陰部洗浄と陰部清拭を考えてみたいと思います。



陰部洗浄と陰部清拭

	陰部洗浄	陰部清拭
備品の準備	陰洗ボトル、不織布ガーゼ、洗浄剤、未使用のオムツ、ごみ袋、個人防護具	陰部清拭クロス、未使用のオムツ、ごみ袋、個人防護具
手指衛生や手袋交換	排便がない場合でも、手指衛生は最低でも3回の手指消毒、手袋は2回の交換が必要となる。	排便がない場合は、手指衛生は最低でも2回の手指消毒、手袋は1回の交換が必要となる。
時間	陰部清拭に比べ、一連の手順に時間を要す。	陰部洗浄に比べ、短い時間で行える。
排便時や皮膚が脆弱な場合	排便時は洗浄により汚染が取り除きやすい。皮膚が脆弱な場合は洗浄の方が皮膚への影響が少ない。	排便時は清拭では汚染を取り除きにくい。皮膚が脆弱な場合は清拭は摩擦による皮膚への影響が大きい。
飛沫による汚染	丁寧に行わないと陰洗ボトルやオムツ周囲に飛沫して汚染する可能性がある。	陰部洗浄に比べ、飛沫がほぼない。
接触による汚染	手袋を適切に交換しないと陰洗ボトル、オムツやリネンなどに接触による汚染の可能性ある。	手袋を適切に交換しないとオムツやリネンなどに接触による汚染の可能性がある。
廃棄や後処理	陰部清拭に比べゴミの量が多い。陰洗ボトルの洗浄、消毒や陰部ケアで使用した物品の廃棄や処理を適切に行う必要がある。	陰部洗浄に比べゴミの量が少ない。使用した物品は概ね廃棄することができる。

いくつかのガイドラインではカテーテル留置している方への日常的な「陰部ケア」は必要と言われています。ただし、陰部ケアは「陰部洗浄」なのか「陰部清拭」なのかは明確にはなっていません。



陰部ケア ≠ 陰部洗浄

看護師は忙しい…



皮膚が脆弱な方や排便時などは「陰部洗浄」が必要です。日常的な陰部ケアに「陰部清拭」を取り入れれば、清潔ケアが簡便になるし、業務も少し余裕ができるかもしれません。



陰部清拭は陰部洗浄より簡便に行える

陰部ケアには「陰部洗浄」と「陰部清拭」の2つあることがわかりました。「陰部清拭」は、清潔ケアで起こりうる感染リスクを抑えることが期待できます。

また、「陰部清拭」を適切に行えば、清潔ケアが簡便になり、ケアの時短にもつながると考えます。これを機に日常的な清潔ケアを見直してみませんか？